

いのちと地域を守る



【参加して】「自分の生活で、ものごとが心配だ。語り部は「被災者が前向きになる」きっかけ。震災以降、不安が大きくなったが、話を聞いてよかった。」

山田奈保子さん(39)



【被災時の心配】「南白亀地区は高台がなくて、津波が来たときの避難場所がない。避難所も収容人数が少なく、住民が避難しきれないのではなか。」

山田直樹さん(41)



【参加して】「語り部活動は、うに、語り部さんを通して、被災者の話を聞けるのがいい。」

中野奈保子さん(42)



【震災時の心配】「震災のときは、冬なら寒さでも心配。震災は、避難所も必要。」

中野奈保子さん(42)

仙台市宮城野区・市高砂市民センター元館長

避難所運営の気構えを

浅見健一さん(66)



「避難所運営は、行政の責任は一切ありません。被災者が避難して、生活が安定するまで、避難所運営は、元々、行政の責任です。」

宮城県山元町・坂元小学校

井上剛さん(56)



「震災時の避難所運営は、被災者の生活が安定するまで、避難所運営は、元々、行政の責任です。」

語り部から

津波は山元町全域に及んだが、断片もなかった。高砂区に逃げ、セマセンターが指定避難所になった。避難所運営は、元々、行政の責任です。被災者の生活が安定するまで、避難所運営は、元々、行政の責任です。被災者の生活が安定するまで、避難所運営は、元々、行政の責任です。

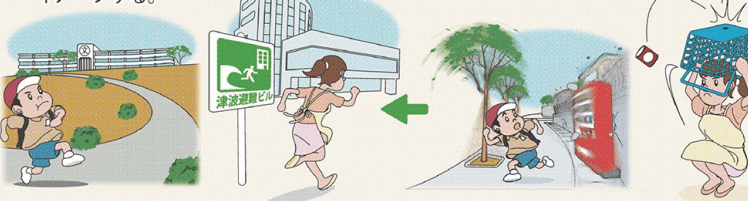
複数の選択肢用意して

被災イメージトレーニング「過去トレ」のすすめ

- ①具体的にイメージできるように前日の行動を題材にする。
- ②当時の場所、状況を思い出す。



- ④津波からの避難ルートと行動をイメージする。
- ③地震発生後の行動をイメージする。



■むすび塾に参加して

千葉県白子町・南白亀地区

家族と会話し対応想定



被災復興支援機構理事長

木村拓郎さん

津波の時は、とにかく早く避難所に行きたい。避難所運営は、被災者の生活が安定するまで、避難所運営は、元々、行政の責任です。被災者の生活が安定するまで、避難所運営は、元々、行政の責任です。

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民らと一緒に地震・津波に備える巡回ワークショップ「むすび塾」を開催しています。名称には、地域と人と人のつながりを強め、防災・減災に結び付けていきたいとの思いを込めました。

今回の「むすび塾」は25日、石巻市の介護サービス「めたかグループ」で開催します。